

狂おしい力が、愛を裸にする。

A WIM WENDERS FILM

THE END OF VIOLENCE

BILL PULLMAN ANDIE MACDOWELL
GABRIEL BYRNE in "THE END OF VIOLENCE" LOREN DEAN TRACI LIND PRUITT TAYLOR-VINCE casting by HEIDI LEVITT

music supervisor SHARON BOYLE music by RY COODER editor PETER PRZYGODDA production designer PATRICIA NORRIS director of photography PASCAL RABAUD
executive producers JEAN-FRANÇOIS FONLUPT ULRICH FELSBERG story by NICHOLAS KLEIN & WIM WENDERS produced by DEEPAK NAYAR WIM WENDERS NICHOLAS KLEIN
written by NICHOLAS KLEIN directed by WIM WENDERS

エンド・オブ・バイオレンス

ウィム・ヴェンダース監督最新作

ビル・プルマン / アンディ・マクダウェル / ガブリエル・バーン

音楽: ライ・クーダー / U2 / シンニード・オコナー / 他

オリジナル・サウンドトラック&オリジナル・スコア: ユニバーサル・ピクチャー

共同提供: 松竹株式会社 株式会社マイビック 配給: 松竹富士株式会社

1997年カンヌ国際映画祭正式出品作品 1997年大阪ヨーロッパ映画祭「大阪市賞」



巨匠ヴィム・ヴェンダース待望の最新作！

犯罪と映画の都市へのまなざしが、スリリングなテーマを生んだ。「ベルリン・天使の詩」「リスボン物語」など、映画への深い愛に貫かれ、数々の傑作を生み出してきたヴィム・ヴェンダース監督。'97年カンヌ国際映画祭でも大きな反響を呼んだ最新作「エンド・オブ・バイオレンス」は、暴力に遭遇する人間という新たな視点から人々の愛や孤独を見つめ、これまでの作品にはない危険な匂いと、クールな詩情を漂わせた野心作である。舞台は「パリ、テキサス」以来14年ぶりのロサンゼルス。暴力犯罪が市民を脅かし、またハリウッドによって暴力映画が量産され続けているこの都市へのまなざしは、その狂暴な力によって裸にされてしまう男と女の愛や、心の秘密、恐怖、裏切りを鮮明に浮かび上がらせる。

映画プロデューサー誘拐事件。

一つの犯罪から浮かび上がる
巨大な謎と疑惑。バイオレンス映画の敏腕プロデューサー、マイク・マックスが誘拐された。しかし、その後、ひと気のない高速道路の高架下で発見されたのは、彼を誘拐した男たちの死体だった。一方、同じ時、FBIが極秘に実験を進めている都市のハイテク監視装置が、その事件の現場を捉えていた。監視していたのは、元NASAの科学者でそのシステムの設計者レイ・ベアリングだったが、その映像は何か肝心な殺人行為の直前に中断してしまった…。巨大な暴力の匂いのするサスペンスを軸に、物語は事件によって繋がれた人々の関係を浮かび上がらせていく。

個性的なキャスト・スタッフ、そしてライ・クーダー、U2、シンニード・オコナーら、

最高のミュージシャンが集結！！ 実際の暴力と遭遇することで逆に人間性を回復していくプロデューサー、マイク役に、「インデペンデンス・デイ」【ロスト・ハイウェイ】のビル・ブルマン、彼の失跡を境に彼がいた権力の座にひかれていく妻ベジ役には、「セックスと嘘とビデオテープ」【フォー・ウェディング】のアンディ・マクダウェル。監視システムの孤独な番人レイに、「ユージュアル・サスペクツ」【デッドマン】のガブリエル・バーン。彼の年老いた父親役を演じるのは、この作品が遺作となったサミュエル・フラウ。音楽は、「パリ、テキサス」以来の起用となるライ・クーダー他、U2とシンニード・オコナーの夢の競演、トム・ウェイツ、マイケル・スタイク（REM）&ヴィック・チェスナットなど、超豪華な顔ぶれが勢揃いし、これまでのヴェンダース作品にも増して最高の映画音楽を作り上げている。製作はデヴィット・リンチ監督【ロスト・ハイウェイ】のディーバク・ネイヤー。美術監督も同じくリンチ組のバトリシア・ノリスが担当。本作の映画内映画で使われているダイナー場面の美しいセットは、ノリスによってアメリカの画家エドワード・ホッパー（1882～1967）の「夜ふかしする人々」の絵画を完璧に再現したものである。サンタモニカ桟橋、マリブ海岸、グリフィス・パークなど広大なL.A.の景観をシネマスコープの画面に収めているのは撮影監督のバスカル・ラボー。因に、物語の重要な舞台となったグリフィス・パーク天文台はヴェンダースが敬愛したニコラス・レイ監督の「理由なき反抗」でも使われ、今は亡き巨匠へのオマージュとなっている。

新たなヴェンダース・ブームの到来

運動企画

- 1 オリジナル・サウンドトラック盤&オリジナル・スコア盤：2種絶賛発売中！
[各¥2,541(税込)ユニバーサルビクター TEL03-5467-9560]
- 2 WIM WENDERS VIDEO COLLECTION
(セル&レンタル 97年10月～98年3月順次発売)
パリ、テキサス/ベルリン：天使の詩/左利きの女/紺文字/都会のアリス/ゴールキーパーの不安まわり道/さすらい/東京画/ニックス・ムビー、水上の稲妻/この次第/アメリカの友人
[各¥3,800(税別)]「さすらい」のみ¥4,800(税別) カルチュア・パブリッシャーズ TEL03-5424-1620]
- 3 E/Mボックス1「ヴィム・ヴェンダース」11月25日発売
[A5版 224頁¥1,800(税別) エスクワイア・マガジン・ジャパン TEL03-5424-1730]
- 4 ヴィム・ヴェンダース写真展(98年4月予定)
[お問い合わせ TEL03-5770-7421 FATHER SCI]

スタッフ 監督：ヴィム・ヴェンダース 脚本/製作：ニコラス・クライン 製作：ディーバク・ネイヤー 撮影：バスカル・ラボー 美術：バトリシア・ノリス 音楽：ライ・クーダー(オリジナル・スコア)、U2、シンニード・オコナー、トム・ウェイツ、スベイン、DJシャドウ、メドスキー、マーティン&ウッド、マイケル・スタイク&ヴィック・チェスナット、ラウル・アロ、ロス・ロバ、ラテン・ブレイボイズ、ハワイ・B、他

キャスト ビル・ブルマン/アンディ・マクダウェル
ガブリエル・バーン/トレシー・リンド/ローレン・ディーン/ニコール・パーカー/K・トッド・フリーマン/フレデリック・フォレスト/ダニエル・ベンザリ/ウド・キアー/サミュエル・フラウ

1997年ドイト映画/カラー/シネマスコープ・サイズ/122分 提供：松竹/マイビック 配給：松竹富士 宣伝：ファザー・SCI



エンド・オブ・バイオレンス

THE END OF VIOLENCE

98年3月都内独占ロードショー

お得な前売ご鑑賞券絶賛発売中！

ペア券2,800円 [お二人で劇場窓口のみ]
一般券1,500円 [当日一般1800円の処]

●劇場窓口にてお求めの方にもれなく特製ポストカードをプレゼント(限定1000名様)

恵比寿ガーデンプレイス内・恵比寿三越となり

恵比寿 **ガーデンシネマ**
03(5420)6161

定員制・入替制